



平成の狭山市を

成人式と振り返る

1月13日(日)、平成最後の成人式が市民会館で挙行され、1千478人の新成人が祝福されるとともに、大人としての決意を新たにしました。平成の30年間、新成人の人数は、7万444人を数えます。この間、市では、長年の課題であった狭山市駅西口の再開発事業や都市計画道路の整備など、都市基盤の整備を進めたほか、数多くの施策に取り組みました。

今月は、平成の狭山市の出来事と成人式を写真と年表でお届けします。皆さんもご自身の平成を振り返り、思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



狭山市の主な出来事

国内の主な出来事

元	消費税スタート、税率3%	礼宮さま・紀子さま結婚の儀、バブル崩壊 雲仙・普賢岳の火砕流	徳仁皇太子・雅子さま結婚の儀、Jリーグ開幕、北海道地震	関西国際空港が開港	阪神・淡路大震災、地下鉄サリン事件、Windows95発売	消費税が5%に引き上げられる 冬季オリンピック・パラリンピック長野大会が開催 iモード携帯電話が普及	成人の日が1月第2月曜日になる	「さいたま市」が誕生	サッカーW杯日韓大会	新潟中越地震	愛・地球博(愛知万博)	新潟県中越沖地震	リーマン・ショック	20
---	--------------	-----------------------------------	-----------------------------	-----------	-------------------------------	--	-----------------	------------	------------	--------	-------------	----------	-----------	----

子ども動物園にサル山が完成し、全面オープン

「広瀬橋」が開通

平和都市宣言

第1回さやま大茶会を開催(写真①)

「教育センター」がオープン

「博物館」がオープン

市の人口が16万人を突破

「富士見公民館」がオープン

健康都市宣言(すこやかさやま宣言)

市営住宅「狭山台さくら野団地」が完成

「狭山台図書館・体育館・プール」がオープン

市営住宅「諏訪団地」が完成

国道299号バイパスが一部区間で開通

市の愛称が「お茶香るまち」に決定

「赤坂の森公園」がオープン

都市計画道路「上諏訪下広瀬線」が開通

圏央道の青梅ICから鶴ヶ島JCTまでが開通。狭山日高IC付近で記念イベントを実施(写真②)

リサイクル都市宣言

新潟県津南町と友好交流都市を締結

新消防庁舎が完成、運用を開始

「サビオ稲荷山」がオープン

「茶の花号」が運行を開始

「不老荘」がオープン

アメリカ合衆国オハイオ州ワージントン市と姉妹都市を締結

県内初のエコスクール「入間川小学校」が開校(写真③)

「サンパーク奥富」がオープン

市営住宅「柏原団地」が完成

全国初の「フレンジー」を実施

学校給食に「さやまっ茶プリン」が登場

国道407号の「豊水橋」が74年ぶりに架け換えられる

国体に備え、智光山公園のテニスコートを整備

構造改革特区に認定され小学校で英語活動が始まる

市内8地区に「地区センター」を設置

都市計画道路「柏原新狭山線」が開通

彩の国まごころ国体でボウリング、ゴルフ、ソフトテニスを開催(写真④)

「下奥富運動公園」がオープン

都市計画道路東京狭山線の狭山トンネル開通

狭山市駅西口再開発事業の工事が始まる

圏央道に「狭山PA」がオープン(写真⑤)

子ども医療費支給制度が始まる

「リサイクルプラザ」が完成



成人式あれこれ

■成人の日の起源

成人の日は、昭和23年に国民の祝日として制定されました。その起源は蕨町(現在の埼玉県蕨市)が行った「青年祭」とされています。

その後、青年祭は全国に広まり、政府は「おとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝いあげます」ことを趣旨に、1月15日を成人の日に制定しました。現在は、平成12年に国民の祝日に関する法律が改正されたことにより、1月の第2月曜日が成人の日となっています。

■狭山市の成人式の移り変わり

狭山市の成人式は、市制が施行された翌年の昭和30年1月15日に第1回が行われました。当時は、公民館などを会場に地区ごとに行われていましたが、昭和52年から入間川小学校の体育館、また、昭和55年からは前年に竣工した市民会館で行われるようになりました。

昭和63年には、対象者は2千866人を数え、市民会館の大ホールでも全員が入場できなくなることから、2回に分けて行われるようになりました。

式典が大きく変わったのは、平成13年。それまではなかった、各出身中学校の代表による「新成人の主張」が行われるようになりました。その内容は、家族や友だちと過ごした時間や、自分の今と将来の夢についての話、また、楽器のパフォーマンスなどさまざまです。

近年は少子化により新成人の人数が減ってきたため、平成26年から式典を1回で行うようになりました。また、



新成人の家族も小ホールでモニターで、式典の様子を見ることができるようになりました。